第 6 章

長期休校後の中高生の心境

― 喪失、困難、不安にみる新型コロナウイルス感染拡大の影響 ―

大﨑　裕子*

第 6 章まとめ

●**新型コロナウイルス感染拡大による学校の長期休校によって、中学生や高校生は、何を失い、どのような困難と不安を抱えながら過ごしていたのでしょうか**。特に多くの中高生から示されたのは、休校により友だちや仲間と過ごす時間が失われたことの残念さ、学校で友人と一緒に先生から学ぶことの大切さ、学校再開後の学習上の困難、進路選択への不安、感染再拡大への懸念といった気持ちでした。

●**感染拡大による影響の感じ方は、生徒の属性や成績、家庭環境によって差がありました**。友人や仲間と過ごす時間を失ったことの残念さは女子生徒ほど感じやすく、通学時の感染不安は私立・国立校の生徒がより感じていました。また成績が下位の生徒ほど、学校再開に対してネガティブになりやすく、学習上の困難や不安をより感じる傾向がありました。そして低年収家庭の生徒ほど、感染拡大による経済状況の悪化に不安を感じていました。

●国や自治体、学校は、休校により中高生が対人的な成長の機会を失い、負担の大きい家庭学習を経験したことを重く受け止め、**休校のあり方や家庭学習の改善策**を検討する必要があるでしょう。また学校再開後の生徒の様々な困難や不安に対し、個々の状況に応じた支援を行うとともに、**感染拡大がその後の学習環境や進路選択にもたらす影響が、成績や経済的な有利さにより異なる可能性を考慮し、適切な対策を講じる**ことが望まれます。

＊東京大学

1．はじめに

新型コロナウイルス感染拡大による学校の長期休校を経験した中学生や高校生の心境とはどのようなものだったのでしょうか。休校により中高生は、学校で授業を受けられなくなり、友だちに会えなくなり、学校行事が中止されるなど、予想もしなかった出来事に見舞われました。学校再開後も、感染不安のもとでの通学、集団活動の制限、学習上の困難、受験や進路選択への不安など、学校生活の面でも学習の面でも、大人が想像する以上に難しい状況が続いたに違いありません。

本章では、以下の３つの問いについて考えます。上記のように新型コロナウイルス感染拡大による中高生への様々な影響が予想されるなか、**中高生自身は、特にどのような点で、喪失や困難、不安を感じていたのでしょうか（RQ1）**。また、**どのような生徒がより大きな影響を受けたのでしょうか（RQ2）**。そして、**今後の社会としてどのような対応が必要となるのでしょうか（RQ3）**。

これらの問いについて考えるため、本章では、（1）学校が再開したときの気持ち、（2）学校再開後の状況認識、および、（3）感染拡大の影響に対する心配・不安、の３点に関する中高生の回答データを次のように分析します。

まず、RQ1 について考えるため、上記（1）～（3）について、中学生と高校生のそれぞれで、全体および学年ごとの回答割合を確認します。続いて、RQ2 について考えるため、生徒の性別や成績、学校の種類や家庭の状況といった要因によって、（1）～（3）の回答割合に違いがみられたクロス集計の結果を紹介します[1)]。以上の検証をふまえ、最後に、社会としてどのような対応が必要となるか（RQ3）について考察します。

2．学校再開以降の中高生の心境

2.1.　学校再開時の気持ち

【図６－１】は、「学校が再開したときの気持ち」としてあげた 12 の項目についてそれぞれ、「あてはまる」（「とてもそう」または「まあそう」）と回答した人の合計割合を示しています。中学生、高校生のいずれも「友だちと会えるのがうれしかった」が最も多く、中学生は約９割、高校生も約８割以上が「あてはまる」と回答しています。**休校により友だちと会えなくなったことが、中高生にとって何より大きな出来事であった**ことがわかります。それ以外で多いものとして、「学校の再開を楽しみにしていた」「学校行事が減ってしまい残念に思った」「再び感染が拡大しないか気になった」「自分も新型コロナに感染しないか気になった」はいずれも約７～８割の中高生が「あてはまる」と回答しました。**多くの中高生がうれしさと感染不安が共存するなかで学校再開をむかえた**こと、そして**学校行事という仲間と共に過ごす貴重な機会が失われたことへの失望**がうかがわれます。

他方、「あてはまる」と回答した割合が最も少なかったのは、「このままずっと休校が続いてくれればよいと思った」や「学校が再開して登校するのが嫌だった」といった、学校再開に対するネガティブな気持ちでした。ただしこれらも中学生の約３～４割、高校生の約４～５割が「あてはまる」と回答しており、**学校再開をよろこべなかった生徒が少なくない**ことにも注意が必要です。

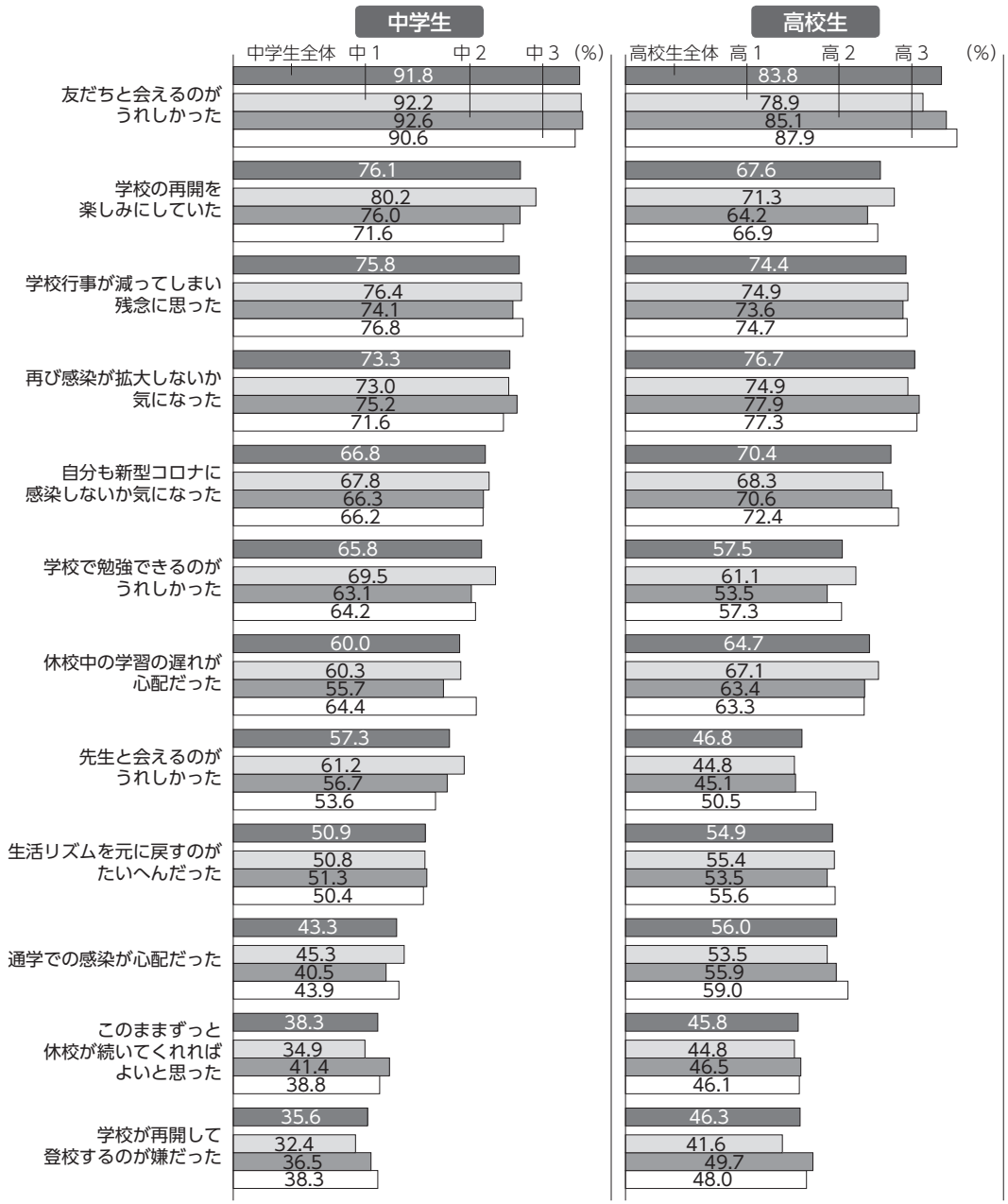
学年による違いもみられます。中学生では、特に１年生において「学校の再開を楽しみにしていた」「学校で勉強できるのがうれしかった」「先生と会えるのがうれしかった」と感じる生徒が多く、ようやく中学校生活がスタートしたことへの安堵がうかがえます。

高校生は、「学校の再開を楽しみにしていた」と感じる生徒が１年生において多い一方で、「友だちと会えるのがうれしかった」と感じる生徒は上の学年ほど多くなっています。卒業が近い生徒ほど、学校で友人と過ごす時間が重要な意味をもつのかもしれません。

2.2.　学校再開後の状況の認識

【図６－２】は、「学校が再開してから後の学校の状況」としてあげた12の項目それぞ

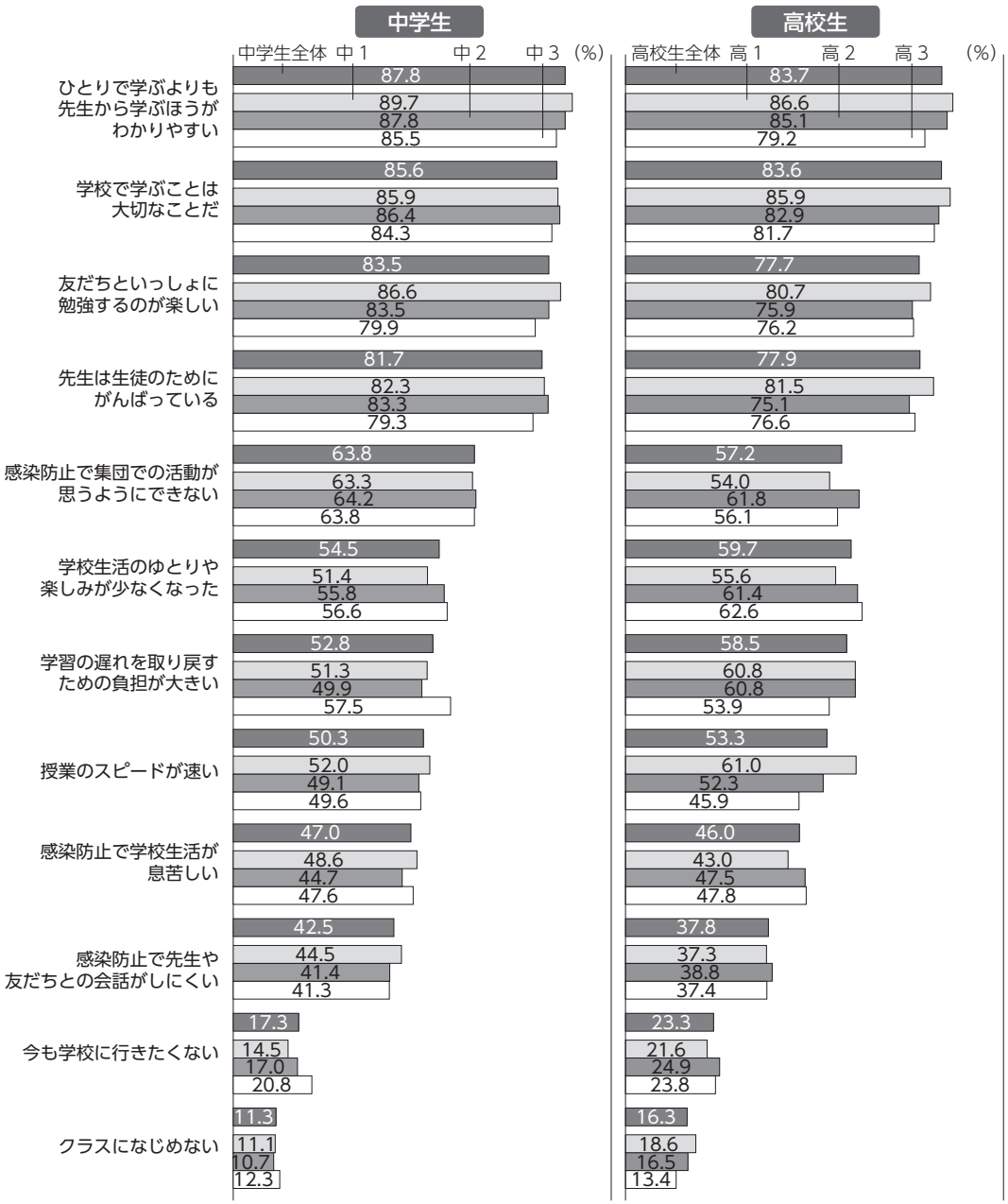
図６－１　学校が再開したときの気持ち



※質問文は「学校が再開したときのあなたの気持ちについてお聞きします。次のようなことについてどれくらいあてはまりますか」、回答は「とてもそう」「まあそう」「あまりそうではない」「まったくそうではない」の４択。
※棒グラフの数値は、「あてはまる」（「とてもそう」または「まあそう」）と回答した人の合計比率（%）。
※サンプルサイズは、中学生全体：2,149、中１：768、中２：713、中３：668、高校生全体：1,606、高１：574、高２：503、高３：529。

れについて、「感じる」（「とても感じる」または「まあ感じる」）と回答した人の合計割合を示しています。中学生、高校生ともに「ひとりで学ぶよりも先生から学ぶほうがわかりやすい」「学校で学ぶことは大切なことだ」「友だちといっしょに勉強するのが楽しい」「先生は生徒のためにがんばっている」の４項目で、約８～９割が「感じる」と回答しています。いずれも、休校を経験した中高生が、**学校で、友人とともに、先生から学ぶことの**

図６－２　学校再開後の状況に対する認識



※質問文は「学校が再開してから後の学校の状況について、次のようなことはどれくらい感じますか」、回答は「とても感じる」「まあ感じる」「あまり感じない」「まったく感じない」の４択。
※棒グラフの数値は、「感じる」（「とても感じる」または「まあ感じる」）と回答した人の合計比率（%）。
※サンプルサイズは、中学生全体：2,149、中１：768、中２：713、中３：668、高校生全体：1,606、高１：574、高２：503、高３：529。

大切さを強く感じていることを示しています。このことは、**休校中の家庭学習が中高生にとってどれだけ難しいことであったか**を表しているともいえるでしょう。

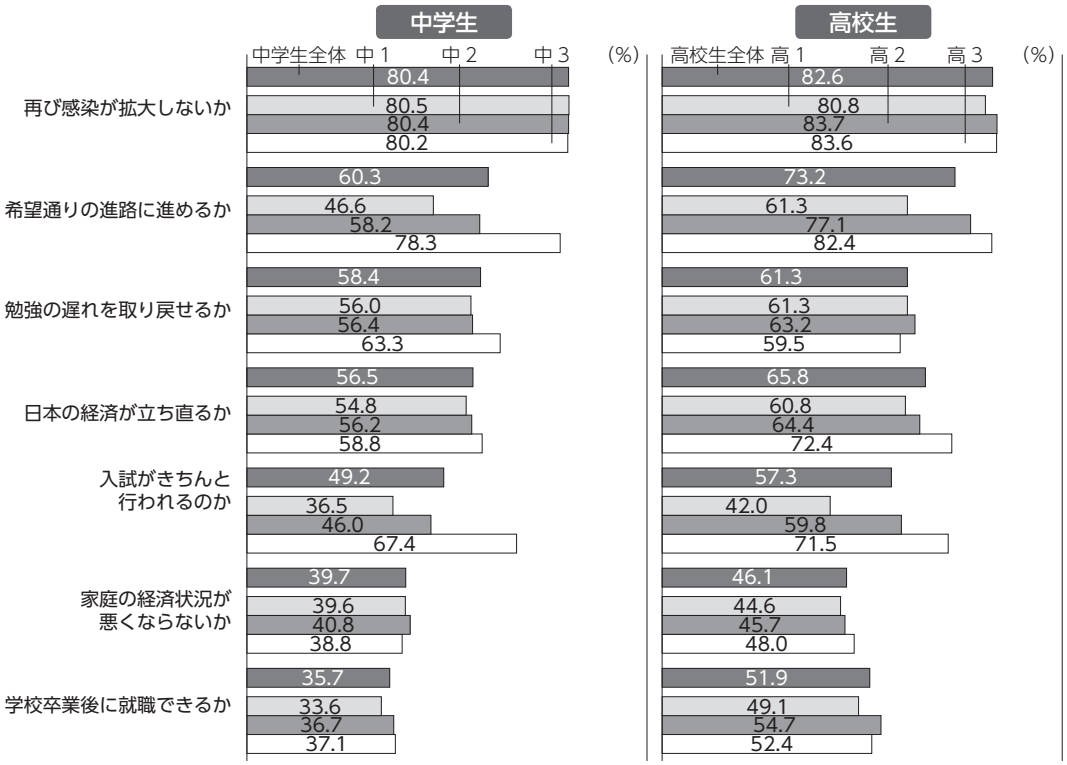
それ以外に、「感染防止で集団での活動が思うようにできない」「学校生活のゆとりや楽しみが少なくなった」「学習の遅れを取り戻すための負担が大きい」「授業のスピードが速い」についてはいずれも約５～６割の中高生が「感じる」と回答しました。**学校再開後も集団活動が制限され、以前のように学校でのびのびと過ごせないことや、休校による授業や学習へのしわ寄せにより、半数以上の子どもが負担やストレスを感じている**状況は楽観視できません。また、他と比べて少ないものの、約１～２割の中高生が「今も学校に行きたくない」や「クラスになじめない」など、再開後の学校生活に問題を抱えていました。**長期休校が不登校にもつながり得る可能性**に留意する必要があるでしょう。

学年による違いとしては、中学生では上の学年ほど「今も学校に行きたくない」と感じる人が多くなっており、再開後の学校生活に困難が多い状況があるのかもしれません。一方、高校生は下の学年ほど「授業のスピードが速い」と感じる生徒が多くなっています。特に１年生は入学と同時に休校を経験したことから、高校生活のスタート時点で学習に困難を抱えた生徒が、その影響を後々引きずらないかが懸念されます。

2.3.　新型コロナウイルス感染拡大の影響に対する不安や心配

【図６－３】は、「新型コロナの影響に関す

図６－３　新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する不安や心配



※質問文は「新型コロナの影響に関して、次のような不安や心配はありますか」、回答は「かなりある」「まあある」「あまりない」「まったくない」の４択。
※棒グラフの数値は、「ある」（「かなりある」または「まあある」）と回答した人の合計比率（%）。
※サンプルサイズは、中学生全体：2,149、中１：768、中２：713、中３：668、高校生全体：1,606、高１：574、高２：503、高３：529。

る不安や心配」としてあげた７の項目それぞれについて、「ある」（「かなりある」または「まあある」）と回答した人の合計割合を示しています。中学生、高校生ともに「再び感染が拡大しないか」が最も多く、約８割が「ある」と回答しています。当然ながら、**感染の再拡大は中高生にとっても重大な不安材料**であったことがわかります。次に多かったのは「希望通りの進路に進めるか」で、中学生の約６割、高校生の約７割が「ある」と回答しました。ただし学年による違いが大きく、進路選択に直面する中３生や高３生は約８割が感染再拡大への不安と同程度に、進路に対して不安を感じていました。**進学や就職という重大イベントを前にコロナ禍に遭遇した中高生の不安**がどれだけのものであったか、改めて考えさせられます。このような学年による違いは、「入試がきちんと行われるのか」についても同様にみられます。

そのほか、「勉強の遅れを取り戻せるか」についても、中学生、高校生ともに約６割が不安を感じていました。これと同じくらい多かったのが「日本の経済が立ち直るか」です。感染拡大で日本経済が悪化することは中高生にとっても決してひとごとではなく、将来あるいは現時点で自分自身にも影響がおよぶことを心配している生徒は少なくないのかもしれません。

一方、他と比べれば少ないものの、「家庭の経済状況が悪くならないか」については中学生の約４割、高校生の約５割が心配しています。一般に、家庭の経済状況は子どもの学習環境や進路選択に影響すると考えられます。**コロナ禍の長期化により家庭への経済的影響はさらに大きくなる可能性があり、中高生の学習や進路選択への影響の深刻化が懸念**されます。

３．　どのような生徒がより大きな影響を受けたのか

3.1.　友だちとの再会と学校行事の減少に対する気持ち：性別による違い

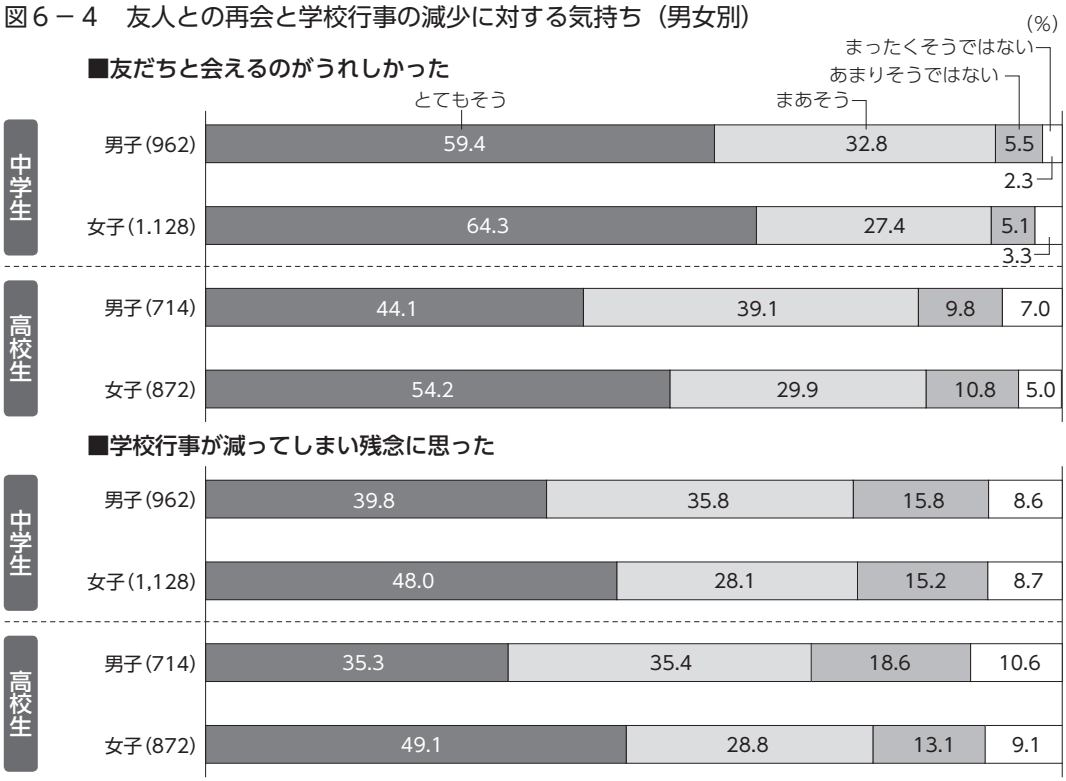
【図６－４】は、学校再開時の気持ちとして多くの中高生が「あてはまる」と回答した「友だちと会えるのがうれしかった」「学校行事が減ってしまい残念に思った」の男女別の回答割合を示しています。いずれも、中学生、高校生ともに「とてもそう」の割合が男子よりも女子で多い傾向がありますが、特に高校生においてその差が大きいことがわかります。２項目どちらの回答割合も、他の要因[2)]の影響を考慮した分析を行うと、高校生でのみ、性別によって統計的に意味のある差がみられました。**10代後半の青春期に、休校により長期間友人と会えなかったこと、また学校再開後も学校行事を通して仲間と過ごす大切な機会が失われた**ことは、多くの高校生にとって大きな損失であったことでしょう。**そのことの喪失感は、特に女子生徒の間で顕著**であったようです。

3.2.　通学不安と学校再開に対する気持ち：学校設置区分と成績による違い

【図６－５】は、学校再開時の気持ちとして約４～６割の中高生が「あてはまる」と回答した「通学での感染が心配だった」および「このままずっと休校が続いてくれればよいと思った」について、それぞれ、学校設置区分（公立／私立・国立）別、成績層別[3)]の回答割合を示しています。

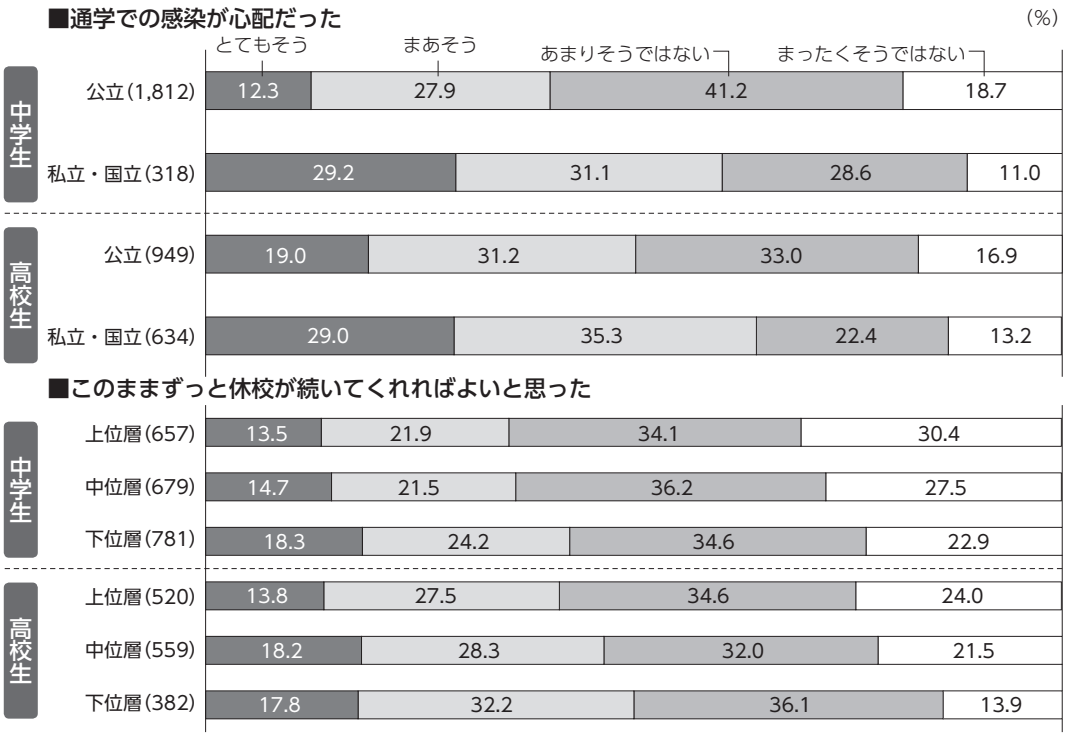
まず、「通学での感染が心配だった」の学校設置区分別の回答割合をみると、中学生、高校生ともに、**公立校に通う生徒よりも私立・国立校に通う生徒のほうが、より通学時の感染を心配**していたことがわかります。公立校に比べると私立・国立校のほうが、通学時間

図６－４　友人との再会と学校行事の減少に対する気持ち（男女別）



※質問文は「学校が再開したときのあなたの気持ちについてお聞きします。次のようなことについてどれくらいあてはまりますか」。
※括弧内の数値はサンプルサイズ。

図６－５　通学時の感染不安と学校再開に対する気持ち（学校設置区分・成績層別）



※質問文は「学校が再開したときのあなたの気持ちについてお聞きします。次のようなことについてどれくらいあてはまりますか」。
※括弧内の数値はサンプルサイズ。
※「私立・国立」には、公立の中高一貫校を含む。

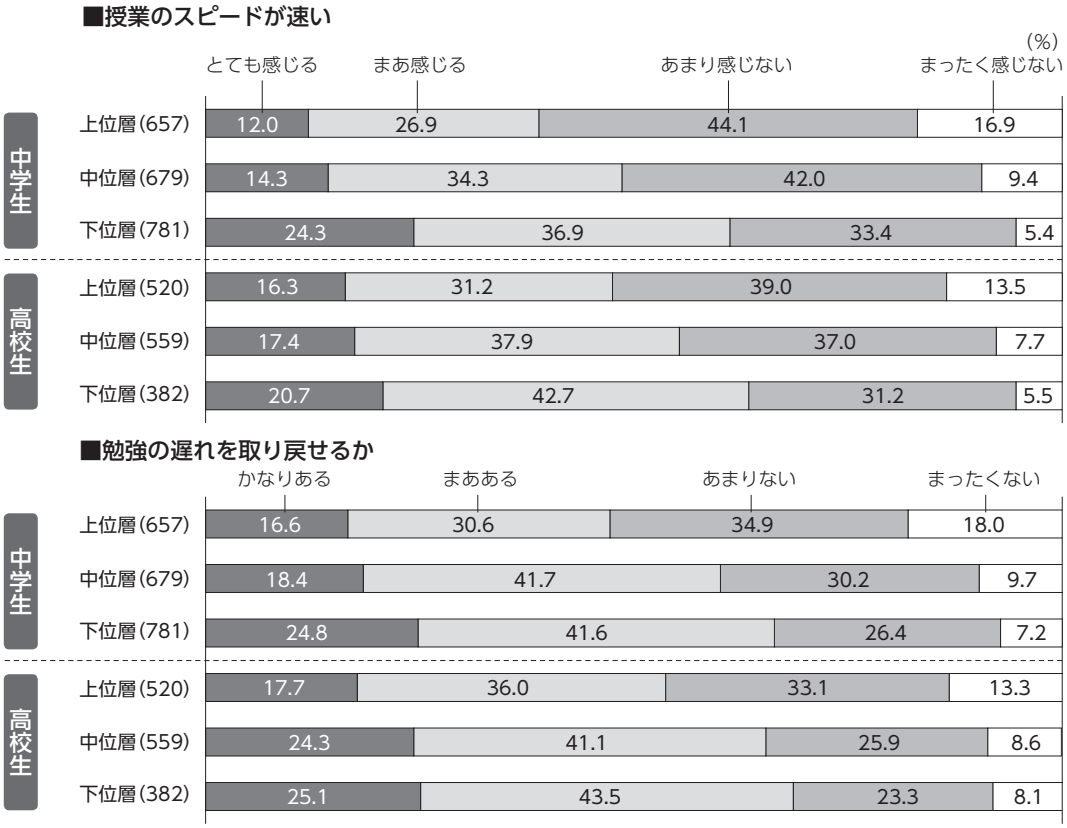
が長くなりがちなことが関係しているのかもしれません。

次に、「このままずっと休校が続いてくれればよいと思った」の成績別の回答割合をみると、中学生、高校生ともに、上位層より中位層、中位層より下位層において肯定回答が多くなっています。**成績下位層の子どもほど、休校による学習への影響が大きく、学校の再開をよろこべない状況**があったのかもしれません。

3.3. 学校再開後の学習に関する困難と不安：成績による違い

【図６－６】は、学校再開後の状況認識としての「授業のスピードが速い」（上図）、および、感染拡大の影響に対する不安・心配としての「勉強の遅れを取り戻せるか」（下図）についての、成績別の回答割合を示しています。いずれも、中学生、高校生ともに、上位層よりも中位層、中位層よりも下位層において、「感じる」「ある」が顕著に多くなっています。**学校再開後の学習における困難や不安の程度に成績による差がある**ことがわかります。休校の影響で授業が遅れ、その遅れを取り戻すために授業のスピードが上がれば、コロナ禍以前から勉強が得意であった成績上位層の生徒と、勉強に不安を抱えていた成績下位層の生徒では、その対応力にも差が生じたことでしょう。**長期休校を経て成績下位層の子どもたちは、コロナ禍以前よりもいっそう学習上の困難や不安を感じている**のかもしれません。

図６－６　学習上の困難と不安（成績別）



※質問文は「学校が再開してから後の学校の状況について、次のようなことはどれくらい感じますか」（上図）、および、「新型コロナの影響に関して、次のような不安や心配はありますか」（下図）。
※括弧内の数値はサンプルサイズ。

3.4.　家庭の経済状況に対する不安：世帯年収による違い

【図６－７】は、感染拡大による「家庭の経済状況の悪化」に対する不安や心配に関する世帯年収別の回答割合を一示しています。中学生、高校生ともに、**低年収家庭の生徒ほど、経済状況の悪化に対する不安**を感じています。「不安がある（「かなりある」＋「まあある」）」と回答した生徒は、年収 800 万以上では中学生の 31.4%、高校生の 36.1%であるのに対し、年収 400 万未満では中学生の 51.5%、高校生の 59.4%であり、いずれも 20 ポイントほどの差があります。

家庭の経済状況の悪化は、中高生が長期休校による学習上のダメージを克服するうえでの足かせとなり、また中高生による経済不安は、希望する進路選択をあきらめる要因になりかねません。上記のような世帯年収による顕著な差は、**コロナ禍により低年収家庭の子どもの学習と進路選択がいっそう不利な状況におかれている可能性**を示しています。

４．おわりに

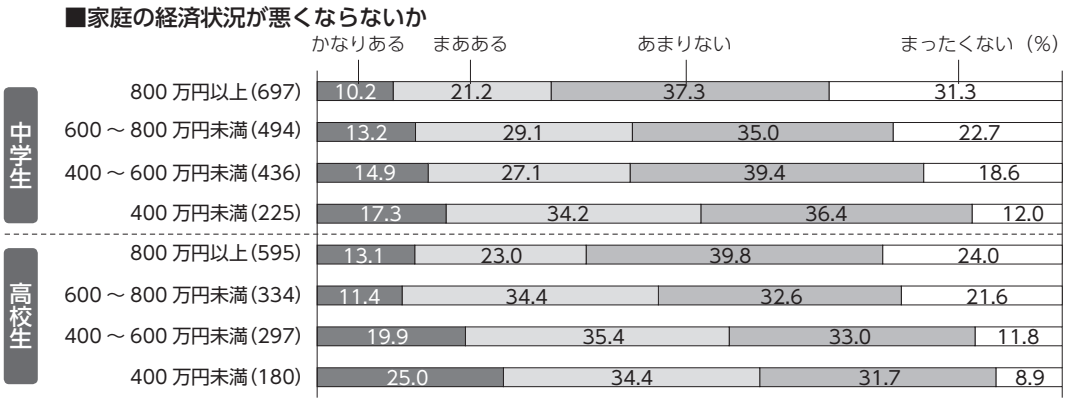
以上の分析結果をふまえ、本章冒頭で述べた３つの問いについて考えてみましょう。はじめに、新型コロナウイルス感染拡大による中高生への様々な影響のなかで、**中高生自身は、特にどのような点で、喪失や困難、不安を感じていたのか（RQ1）**、という問いに対し、学校が再開したときの気持ち、学校再開後の状況認識、および感染拡大の影響に関する不安・心配の３点に関して、次のことが明らかになりました。

学校が再開したときに中高生が特に強く感じていたのは、友だちとの再会をよろこぶ気持ちや、学校行事が減ったことへの残念さでした。長期の休校により中高生が最も大きなショックを受けたのは、友だちと過ごし、仲間とともに活動する大切な時間が失われたことだと考えられます。また、多くの中高生が感染再拡大に対する不安のなかで学校再開をむかえていました。

中高生の学校再開後の状況認識のなかで特に顕著であったのは、学校で友人とともに、先生から学ぶことの大切さに対する認識でした。こうした認識は、休校期間中の家庭学習が、理解度の面でも楽しさの面でも、いかに難しいことであったかを表すものです。

感染拡大の影響に関して中高生の不安や心配が最も大きかったのは「感染の再拡大」で

図６－７　感染拡大による家庭の経済状況への影響に対する不安（世帯年収別）



※質問文は「新型コロナの影響に関して、次のような不安や心配はありますか」。
※括弧内の数値はサンプルサイズ。

したが、それ以外では、学習の遅れや進路選択に関する不安が多く示されました。

これら多数派意見と比べれば少ないものの、学校再開後の登校不安や感染拡大による家庭の経済不安を感じる中高生が一定数いたことも看過できません。

次に、感染拡大により、**どのような生徒がより大きな影響を受けたのか（RQ2）**という問いに対し、主に学校生活、学習、経済状況の３点において、以下のことが明らかになりました。

学校生活の面では、友人との再会をよろこぶ気持ちや行事の減少を残念に思う気持ちは、高校生においては特に女子が強く示しました。また、通学時の感染不安は、公立校よりも私立・国立校の生徒の方がより感じていました。さらに、成績が下位の生徒ほど、学校再開をよろこべない気持ちを示していました。

学習の面では、学校再開後の授業スピードや勉強の遅れといった学習上の困難や不安を、成績が下位の生徒ほど強く感じていました。

経済的な面では、低年収家庭の子どもほど、感染拡大による家庭の経済状況悪化に対する不安を顕著に感じていました。

以上の知見をふまえ、最後に、**今後社会としてどのような対応が必要となるのか（RQ3）**、考察したいと思います。

第一に、**長期の休校により中高生が対人的な成長の機会を失ったことの大きさを、社会として重く受け止める**必要があるでしょう。本章では、友人とともに過ごし、仲間と活動する貴重な機会が失われたことを、中高生自身がなによりも残念に感じていることが明らかになりました。10代の若者が大人への道を歩む過程において、かけがえのない時間を失ったことの意味を、社会は軽視してはならないと思います。

第二に、本章では、休校期間中の家庭学習を、多くの中高生が大きな負担に感じていた状況が明らかになりました。国や自治体、学校は、休校措置がとられたときの対応として、または、将来への備えとして、**オンライン学習やデジタル環境など、できるだけ負担の少ない家庭学習を可能にする対策、あるいは休校そのもののあり方**について検討する必要があるでしょう。

第三に、本章では、学校再開後も感染再拡大や学習の遅れに対する不安をもつ中高生は少なくなく、さらに通学時の感染不安（特に私立・国立校）や登校そのものにネガティブな気持ち（特に成績下位層）をもつ生徒も一定数いることが明らかになりました。このような状況に対し、**生徒が学校に再び安心して通えるよう**、国や自治体、学校は、**個々の状況に応じて心理的・物理的なサポート**を行う必要があるのではないでしょうか。

第四に、感染拡大が中高生の学習や進路選択にもたらす影響の差異について注視する必要があります。本章で示したデータによれば、中高生の６～７割、中３・高３生に限れば約８割が、希望通りの進路選択ができるかについての不安を共有しています。その一方で、休校による学習上の困難・不安の程度には成績層による差があり、家庭の経済状況悪化に対する不安には世帯年収による差があることが明らかになりました。これらの差は、長期休校による学習上のダメージや、それを乗り越えるうえでの環境に、コロナ禍以前から存在する生徒間の有利・不利による差異があることを意味しています。このことは、希望通りの進路選択ができるかどうかにも影響するかもしれません。**新型コロナウイルス感染拡大により進路選択の格差が拡がる可能性**をふまえたうえで、国や自治体、学校には、適切な対策を行うことが望まれます。

【注】

1）ただし本章で示すクロス集計においては、特別な記述がある場合をのぞき、注目している要因以外の要因（子どもの性別、学年、成績、通っている学校の設置区分〈公立／私立・国立〉、高校種別〈卒業生の進路による区分、高校生のみ〉、休校期間、居住地域の都市規模、父母学歴、世帯年収）による影響を考慮したうえで、その要因による回答割合の差は統計的に意味があることを確認しています。

2）他の要因については注１を参照してください。

3）国語、数学、理科、社会（高校生は地理歴史・公民）、英語の５教科それぞれの、学年のなかでの成績に対する子どもの自己評価（「1 下のほう」～「5 上のほう」の５段階）の合計得点を、おおむね同割合になるように、上位層／中位層／下位層に３区分しています。